

## 離島・群島課題と高等教育機関への期待

東 美佐夫

## 奄美市総務部企画調整課

## 1. はじめに

奄美群島は、有人8島（奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島）から構成される文化・経済を共有する島嶼圏域である。温暖多雨、年間平均気温21℃の亜熱帯の島々（図1）。地元では、ティダネシア（「太陽の島々」太陽を奄美方言でティダ）と呼ぶこともある。人口約12万人、総面積約1,230km<sup>2</sup>、南北約200km。【参考：ミクロネシア連邦 1. 面積：700平方キロメートル（奄美大島とほぼ同じ）、2. 人口：111,306人（2008年、世界銀行）（出典：外務省）】。7～8世紀、遣唐使の南島路の寄港地としての役割を果たし「道の島」とも言われた。沖縄の琉球文化と異なり、本土と琉球、アジアのそれぞれの文化が交流したことによって独自の文化が育まれた地域でもある。

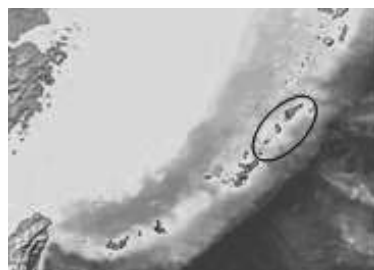


図1 南西諸島（ウィキペディア日本語）

## 2. 島のジレンマ

日本では、多くの離島（沖縄本島、石垣島除く）が人口減少を続けている。離島が抱える最大の悩みだ。小離島においては、維持存続困難な島もある。しかし、ここ奄美群島においては、どうだろうか？

表1は、奄美市の年齢別社会動態である。高校生が島外（本土）に転出する年齢層を除くと、一般社会人は転入増加である。奄美群島全体でも同じような状況である。即ち、人口減少の要因は、この高校生転出を補充できないことにある。離島の魅力が年々高まる中、島に住みたいIターン者、Uターンを希望する出身者が増加している（表2）。しかし、人口は減少。ここに島のジレンマがある。

表1 奄美市年齢別社会動態

	0歳～ 17歳	18歳～ 21歳	22歳～	合計	高校卒業生 (島外転出)
転入(A)	542	183	1,847	2,572	
転出(B)	-580	<b>-534</b>	-1,819	-2,933	<b>約550名</b>
A+B	-38	-351	28	-361	

出典：奄美市企画調整課

表2 奄美群島への居住意向調査

	アンケート数	居住理由	率
在住者	2,278人	継続居住	80%
出身者	261人	帰郷居住	65%
高校生	1,267人	Uターン	75%
来島者	360人	Iターン	53%

出典：奄美群島振興開発総合調査報告書（鹿児島県）

表3 奄美・沖縄地域の植物分布比較

	奄美地域	沖縄地域
自生被子植物	1,087	1,084
北限種	132	54
南限種	20	73
固有種・変種	34	20
絶滅危惧植物数	192	-

### 3. 鹿児島大学への期待

沖縄本島と奄美群島の顕著な違いは、高等教育機関の設置数である（沖縄10校、奄美0校）。高等教育機関の地域における寄与度は、計り知れない。特に、学術的機能による知的集積は、産業の高度化、政策決定における学際的な選択など様々な局面で有効である。奄美群島の地理的優位性は、北に鹿児島県、南に沖縄県という特徴ある圏域を両翼に抱えていることである。しかしながら、優位性を十分に発揮しえないところに奄美群島の悩みがある。

今、鹿児島大学は、奄美サテライト教室をベースに新たな展開を始めようとしている。大学院のカリキュラムの一部を奄美で開設するとのこと。しかも島嶼政策コースである。コース開設の理由に以下を挙げている。

(1) 現代の地方社会が抱える様々な問題が集約している離島

(2) 島嶼地域でのフィールドワークを通してこれら諸問題への解決策を探求

まさに、私達が長年、島嶼地域の価値を訴えてきたテーマである。

奄美群島は、生物多様性の島々として注目されている（表3）。加えて、昨年ユネスコは、消滅危機言語として、国内8言語の一つに「奄美語」を加えた。独立した言語圏であることを国際機関が認めたことに大きな意義がある。奄美群島は、自然・文化の貴重な研究フィールドということだ。開発のテンポが緩やかな島ほど、学術的な価値が残された。奄美群島は、その利点を大いに生かすべきである。島嶼政策コースでは、学生が専門的知識を養うことになる。一方、奄美は、その設置の恩恵をどのような形で享受できるかである。いわば相互利益の仕組みを早期に構築することが望まれる。小・中規模の島々が点在する奄美群島。島嶼が、地域自治として、あるいは島嶼経済圏として、持続的成長を実現するために必要なシステムは何か。また、島の規模が、自治行政、島嶼経済にどのような影響を及ぼすのか。島のあるべき姿が、学際的な視座から検証可能となる。鹿児島大学に期待することは、こうした島嶼社会のあり方を自然・文化の分野にとどまらず、行政及び島嶼経済など総合的分野で有している専門かつ知的資産の地域還元である。

### 4. 自立的発展へ

昨年、群島12市町村が、自ら自立的発展に向けた「振興計画基本方針」をまとめた。この中で、「奄美群島は、単一自治から生活圈域を基軸とした島単位へ、さらに群島民視点の群島圏へ事業や施策をシフトする必要がある。そのためには、主体的な地域づくりの理念を持つことである」と述べている。広域的展開へ大きく舵取りを始めた。

鹿児島大学の今回の展開は、奄美群島に大きな知的財を生み出す道を拓いたことになる。これは、自立的発展に向け歩み始めた私たちの背中を後押しすることになる。そこに期待したい。

### 後記

昭和初期、ミクロネシア連邦に奄美から、かなりの移住者がいたことを今回初めて知った。琉球の大交易時代に遡ると、まだまだ交流の足跡が窺える。人口、面積規模、亜熱帯と熱帯、類似する島嶼。今回のフォーラム、奄美群島の未来可能性に新たな示唆を予感。

# Problems in Small Islands and Prospects for Kagoshima University

HIGASHI Misao

the Chief General Affairs and Plan of Amami City

## 1. Introduction

The Amami Islands consist of eight inhabited islands (Amami-oshima, Kakeromajima, Uke-shima, Yoro-shima, Kikai-jima, Tokunosima, Okinoerabu-jima, Yoron-jima, Fig. 1). Their population is approximately 120,000; total area: approximately 1230 km<sup>2</sup>, and 200 km from the north to south. The average annual temperature is around 21 ° C. In the Amami Islands, some people call this region “*tida-nesia*” (*tida*= sun, *nesia*= islands). The Amami Islands played a role as the ports of Japanese envoy to Tang Dynasty (China) in the seventh to eighth centuries. The unique culture of Amami developed under the influence of mainland Japan, Ryukyu, and Asia.

## 2. The Dilemma of Small Islands

The population of small islands in Japan continues to decrease, and it is a big issue. How about the Amami Islands? Population dynamics of Amami city are shown in Table 1. Students graduated from high school tend to move out from Amami city, but population above 22 years old tends to increase. This phenomenon is also confirmed in other islands of Amami Islands. The problem is that the number of emigrating high school students is not replenished by other age groups. The number of people living in Amami city through I-turn or U-turn is recently increasing, but the total population is still decreasing. This is the “dilemma of small islands.”



Fig. 1 Nansei Islands (Wikipedia in Japanese)

Table 1 Population dynamic statistic of Amami city

	Age			total
	0 - 17	18 - 21	22 -	
moving - in (A)	542	183	1,847	2,572
moving - in (B)	580	534	1,819	2,933
A - B	- 38	- 351	28	- 361

### 3. Prospects for Kagoshima University

The big difference between Okinawa Island and the Amami Islands is the number of higher education organizations (ten schools in Okinawa and no schools in Amami Islands). The contribution of higher education organizations is apparent. Higher education has benefits for advances of industry and for policy making. Kagoshima University is establishing a curriculum in the graduate school (about policy in small islands), which is offered in Amami partly through the “Amami satellite classroom.”

Biodiversity in the Amami Islands is now the subject of attention. In addition, UNESCO added the Amami dialect to the languages of Japan. Thus, the Amami Islands is an important research field of both nature and culture. Academic values have been kept in the islands where the speed of the development was slow. This advantage should be recognized and used. In the curriculum of “Amami satellite classroom”, students can learn expertise, but what benefit can the Amami Islands get from the curriculum? It is hoped to construct the mechanism of reciprocity. The expectation for Kagoshima University is access to intellectual property on nature, culture, society, politics, and economy etc., of the Amami Islands. These academic developments will support the self-sustaining development in Amami Islands.

(Translated by YAMAMOTO Sota)